

2024年度入試解説（国語）

2

問一 漢字の書き取りに関して、一画一画丁寧に書かれておらず続け字になっていて画数が変わっているものは×とする。

3 古典

問一 ・母音が連続するときは長音になります。「やう→よう」
・助動詞「む」「らむ」「けむ」等の「む」は「ん」と発音します。「あらむ」→「あらん」
以上から、正解は「ようあらん(完全解答)」となります。

問二 傍線部2「梨花一枝春帯雨」の書き下し文が、引用文としてIで「梨花一枝、春、雨を帯びたり。」と書かれています。

傍線部中「帯雨」を「雨を帯びたり」と呼んでいるので、返り点はレ点が付きます。

問三 Iに書かれている「もろこしには限りなきものにて、文にも作る」とある文(漢詩)というのは、『長恨歌』のことです。IIの「梨花一枝春帯雨(梨花一枝、春、雨を帯びたり。)」という句は、Iでは「楊貴妃の帝の御使ひにあひて泣きける顔に似せて、言ひたる」とあります。つまり、梨の花に降りかかる雨という表現は、楊貴妃が帝の使いと出会って泣いた顔に例えて描かれていることがわかります。以上から④が正解です。①「枕草子」が書かれた平安時代中期は、遣唐使が廃止され「国風文化」が栄えた時代です。②「感興が軽妙に描かれている」「重厚な描き方」とは言えません。③「批判的に描」いてはいないし、IIで「花の美しさに感動して」とも言えません。

4 小説

問一 (1)「踏む」には、「見当をつける。評価をする。また、値踏みをする。」という意味があります。正解は②。

(2)「噛みつく」には、「激しく食ってかかる。」という意味があります。笠原が輪島のミスに対して「このアホ！身体でとめろッ！…」と責めている場面ですので正解は③。「①罵倒する」は「激しくののしる。」という意味でこの場面では不適當です。

問二 X 空欄直後の「輪島が入ったことでもしも、ということがあるよなあ、～いきなり先発出場はどうかなあ……。」という箇所は、輪島が先発出場することでもしかしたら試合に負けるかもしれないという不安を述べています。したがって、正解は③です。

Y 空欄を含む部分で「輪島は傾いた眼鏡をでかい鼻の上に飛び跳ねさせ、がに股で Y 二塁ベースを目指した。ドスン、と二塁ベースに着地した。それから審判にグラブの中のボールをかざしてアピールし始めた。『ア、ア、アウトだ、ア、アウト！ ト、ト、ト、捕ってたんだッ、ア、アウトだ、ア、ア、アウト！』という箇所から、輪島が一生懸命に走り、アウトをアピールしようとしていることがわかります。正解は④。

問三 傍線部の後に「すかさず輪島にライトの守備位置をあげわたした力石がまぜっかえした。おう、そうだぜ、とぼくたちはまたゲラゲラ笑い、輪島の頑丈な肩をバシバシ叩いてやった。」とあります。「まぜかえす」は「わきから口をはさんで人の話を混乱させる」という意味があります。また、発言後の「ぼくたち」の「笑い」や「肩をバシバシ叩く」行動から、輪島のミスを責め立てるのではなく、励まし元気づけようという意図がわかります。正解は④。

問四 「必死」は「必ず死ぬ」という「修飾語+被修飾語」という構造になっています。同じ構造の熟語は、「予(あらかじめ)め告げる」という意味の「予告」です。正解は②。

問五 傍線部の直前に、「なんだってあいつが逆戻りしてくるんだ？」と、Uターンしてくる輪島の行動の意図がわからず戸惑っていることが書かれています。また、「ぼかんと」という語は、ぼんやり眺めている様子を表しますので、皆が、輪島の行動の意味が分からず、Uターンしてくる輪島の姿をぼんやり眺めてることがわかります。正解は④。

問六 輪島がフライをキャッチしたことを「奇蹟」と述べている箇所です。直後に「喜劇」という語があり、空欄補充の候補と考えるかもしれませんが、輪島が最後の公式戦に初出場してのフライキャッチは、「喜劇＝滑稽な出来事」というだけでは語弊がありません。

問七 東井の行動の理由は、「東井が走ってダッグアウトに戻ってきた。真っ直ぐに輪島のところにいて、キャッチャーミットからボールを取り出した。輪島が奇蹟をおこしたボールだった。『おっさん』東井は輪島にボールをトスした。輪島はボールをつかみそこねて落としそうになった。『さっきのウイニングボールだ。とっつけよ』」にあります。正解は③です。④は「野球人生最後の記念になる」がどうかはこの時点で不明なので×です。

問八 傍線部4の「手荒い歓迎」は、問三にあったとおり、あえて皮肉を言うことでミスをした輪島を励まそうという意図があるとともに、「歓迎」という表現からは公式戦初出場の輪島をチームの一員として迎えようというチームの雰囲気も読み取れます。傍線部8の前後にある「僕たちは笑いを爆発させた。全員が輪島に殺到した。～輪島は～顔はうれしそうに歪んでいた。」という内容から、輪島の活躍の喜びをチーム全員で爆発させているということです。正解は①。選択肢④は「ミスをして落ち込んでいる」というところが本文にはありませんし、「チームに勝利をもたらした」ことで「皆が(輪島を)

認めた」ということも言い切れません。

問九 ①Aさん...中川先生に「たとえ試合に負けても」いいという考えがあったかは本文中にありません。

②Bさん...輪島を試合に出したのは「中川先生の単なる気まぐれ」とは言えません。

③Cさん...輪島は他の場面でもどもって話しているのに、中川先生に「感謝の言葉を素直に言えない」とも言えませんし、中川先生の「仏頂面(不愛想・不機嫌な顔)」という表現が本文から読み取れない内容で×です。

④Dさん...「三年間畑の中の球拾いばかりで試合に出ることのなかった輪島」の「三年間の地道な努力が最後に報われたんだ。」という感想は正しい。また、中川先生自身が「このボールのおかげでここまで教師をつづけてこられました」、「あれから三十年、～先生にもいろんなことがあった。苦しいことがあったり、しんどいことがあったとき、このボールは先生の支えになってくれた」と語っていることから、ウィニングボールのもつ象徴的な意味を正しくとらえています。正解は④。

⑤Eさん...若いころの中川先生が「偏屈で、生徒と心を通じ合わせることができずにいた」というところが、本文の内容を誇張しています。

⑥Fさん...「物語を客観的に淡々と述べてい」ません。「ぼくたち」の視点から主観的に語られています。

5 評論

問二

空欄Ⅰの後には具体例が来ているので「たとえば」でつなぎます。

空欄Ⅱの後には『パンダコパンダ』が『劇画オバQ』とは異なっているということが書かれているので逆接である「しかし」でつなぎます。

空欄Ⅲの前には「パパンダが演じることによって現実に入り込んできた」という内容が書かれています。後には「バランスが崩れた現実と非現実の関係を演じることで結び直す」という内容が書かれているので、順接の「だから」でつなぎます。

問四

3段落に「天秤が現実のほうへと大きく傾く時もある。作中で現実の色が濃くなるシーンは、物語の転換点などが多い。」という表現があるので、そこをまとめた③が正解。

問五

8段落に「Q太郎は現実の世界の中であまりに非現実的な(マンガ的な)キャラクターとして、その世界そのものから拒絶されてしまう。」とあることから、Q太郎が物語世界から拒絶されてしまいそこから去らざるを得なくなったことが示唆されています。よって正解は①。

問六

傍線部の直後に「それは～」という理由を説明した文があります。そこから過不足がな

いように抜き出せば正答です。

問七

この文章における“脚本”とは、パパンダの「単なるパパ」や「ずっと会社がお休みのパパ」のように、作中での守るべき設定のことです。それを書き換えるということなので、正答は④。

問八

“演技”は、パンがぬいぐるみやモチ、クマなどに間違われることで現実的な登場人物に受け入れられている場面で使われています。「演技」は、パパンダや動物園が「役割の変更」を行うことで問題の解決につながるという説明に使われています。以上から、それをまとめた②が正解です。

問九

①は1 3段落に、②は1 6段落に書かれています。また、③④は1 8段落にその内容が書かれています。

問十

この文章に使われている動詞は「裏切る」という五段活用動詞なので、適切でない選択肢は③。

問十一

この文章は、1～7段落が物語の現実と非現実のバランスに関する内容となっています。8、9段落は物語内の現実と非現実のバランスが崩れるとどうなるかということが『劇画オバQ』を例に出して書かれています。10～18段落では、『パンダコパンダ』がなぜバランスがとれているのかという疑問の提示とその解答がされています。よって正解は④となります。